

## メキシコの世界地質会議に列席して

所 長 兼 子 勝

1952年にアフリカのアルゼリアで開催された第19回世界地質会議の議決により、第20回の世界地質会議は昨年9月4日にメキシコ市において、収容人員5,000人と称せられる国立公会堂で大統領臨席の下に行われ、文字通り盛観をきわめた発会式を皮切りとして、はなやかに幕が落とされた。

参加者は70余国から多くの夫人達も交えて1,500人余に及び木立の並ぶ道路や整然たる広い公園も、来会者専用のバスや自家用車の列で埋め尽くされる程であつた。

円型壁に取囲まれた会場の正面には第20回世界地質会議と大きく原色も豊かに、ハンマー交叉の標識と共に描き出され、世界の地質家の誇りをかき立てるのに十分であつた。特にRuiz Cortines メキシコ大統領入場の際

に場内外に控えた音楽隊により内外和呼応して奏せられた音律の響きは、世界の仲間にとどけよとばかり胸を打ち、全く国を忘れた私達地質家の親しみと嬉しさをかき立たせた。

発会式は総裁である経済大臣 Gilberto Loyo 氏の次のような開会挨拶で始まつた。

メキシコはアメリカ大陸発見前からヨーロッパに対する宝石や装飾品の

供給源として美望の地であつたが16世紀にスペイン人の到着とともに鉱業が勃興するに至り16~17



会 場  
(国立公会堂)





祝辞を述べるメキシコ大統領

世紀には重要な金属資源の開発が行われ、次いで非鉄金属の生産に及び今日では世界の中でも重要な鉱産国となった。石油の開発については世界でも遅く、1860年に発見し経済的産出は1901年以降となり、国民経済に直結するようになったのは1915年以降である。

これらの鉱産資源の埋蔵は過去の生産量よりはるかに上廻り、潜在富力は著しく、特に国家によって統合された石油については国の経済力増強の主力をなしている。

将来の世界の生活水準は鉱産資源の増強にまたねばならず、全世界の工業発展はまた地質家の双肩に負うものであるから、現在は地質家1人といえども非常に重要な存在をなしている。故に Ruiz Cortines 大統領はメキシコ地質家の努力を認め、ますます国のため活動の機会を与えるよう計っている。



日本代表团（国立公会堂正面）  
〔左から坂本・坪井・遠藤・佐々各教授〕  
兼子地質調査所長

今や原子力の新しい時代にあつて、人間の自由と尊厳は国連の唱える相互尊重の精神にのっとり、生活の基調たんとするに至っている。かかる光明あるとき、メキシコは第20回地質会議の成功を期するとともに、これを祝福する次第である。

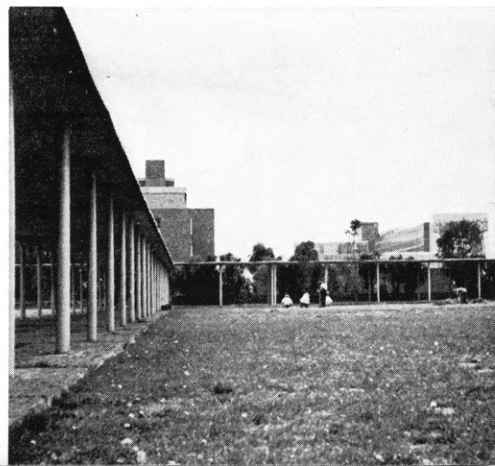
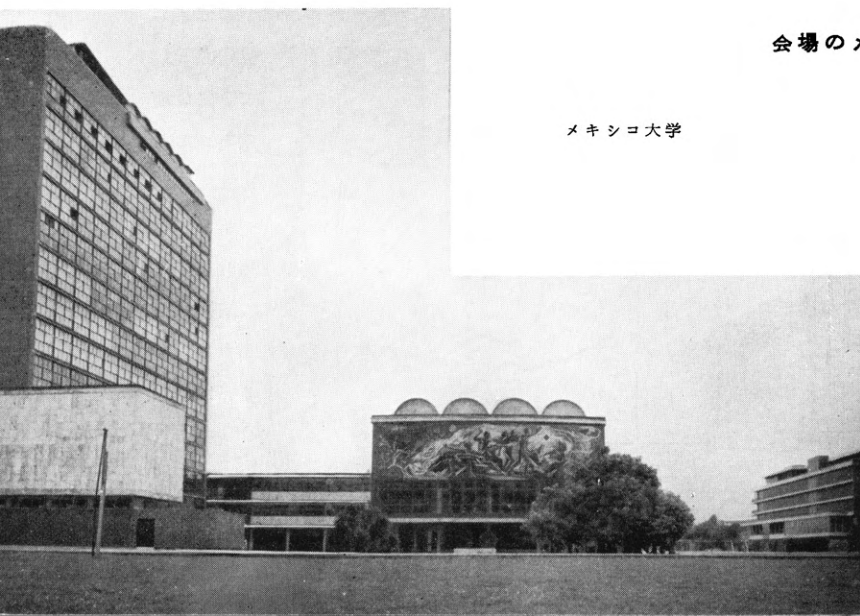
**会議は** 経済大臣を主宰とし、外務大臣、石油企業体の主長、メキシコ大学総長を副主席とし、石油企業体から2名の幹事が選ばれ、別に施行機関は石油企業体からの上記のうち1名の幹事を長として設けられた。

研究発表会、会議運営委員会、その他の委員会はずべてメキシコ大学を会場とし、一般研究発表会、討論会は9月5日から行われ、11日の閉会式を終幕として一さいの会合を終え、各会員は13日からそれぞれ16班に分かれて1~2週間の巡検に出発した。

**会場のメキシコ大学** は市の中心部から

メキシコ大学

メキシコ大学校庭の一部



10km 余りの郊外にあつて、熔岩台地を切開いて建設されたもので、その面積は世界一とも言われ立派なアスファルトと異様なモザイクをほどこした建築物はメキシコ自慢のものである。なお目下は歩行にも困難な熔岩台地を盛んに切り開いて大学敷地の拡張中であつた。

**今回の会議**には世界の有名な地質学者はほとんど列席し、アメリカの約300人、ソ連の100人を始めとし、また各国の地質調査所からも出席をしていた。筆者が一昨年訪れたソ連、英、仏、独、各国の地質調査所からも列席者があつて旧交を暖め、今後の文献交換や技術の交流に益するところが極めて大であつた。

**昨年東京で開催**された ECAFE 会議、並びにその後来日したソ連・朝鮮・台湾・ドイツ・インド等の調査所首脳陣にも会場その他で再会することを得た。また公会堂で催されたメキシコ各州のきらびやかな地方色豊かな舞踏、国立劇場のオペラ、また野外で行われたロデオ、旧皇邸での宴会等の交歓によつて、私達地質家独得の世界の地殻を知らんとする喜びは一層昂揚されるに至つた

なお筆者は野外巡検には油田見学の班に加わり日産99,200バレル（産油井188坑）を産し、全メキシコの75%を産出する Poza Rica 新興油田を見学した。また個人でアエトラ銅山（同和鉱業）やパリクチン新火山も見学したが、これらについてはいずれ稿を改めて記載する機を得たい。



上はメキシコ市の郊外 下2葉はメキシコ市内

閉会式場入口（メキシコ大学体育場・日本人設計の由）



会議主催のロデオ

